



夏季休業中開催の研修講座報告 6

竹井 史先生の講座「**図画工作科の授業づくり**」

8 月 20 日(月)に愛知教育大学の竹井教授をお招きし、『コツがわかれば子どもが変わる！子どもが夢中になる図画工作指導～手づくりおもちゃを中心に～』の研修講座を開催しました。

紙コップ、ストロー、A4 コピー用紙、色紙、輪ゴム、傘袋などの身近にある材料を使って、「色紙笛」「ストロー笛」「ストローロケット」「クルクルプロペラ」「すいすいこいのぼり」「へそヒコーキ」「ポンポンボール」「紙コップパペット」「かさぶくろロケット」など 20 種類ほどのおもちゃを作りました。

そして、それらのおもちゃ作りを通し、教師が教えるところと子どもが自由に創作するところの別をハッキリとさせておくことの大切さや製作のための環境



を整えることの重要性、教師としてプロの援助・支援をするための教材研究のあり方、活動中の安全確保の方法などについて教えていただきました。また、ストローを組み合わせることでもとてもおもしろい動きをするおもちゃに発展させることができるといった身近な素材を活かす時のコツ、はさみなどの道具を使う時のコツ、紙の折り方など紙使いのコツ等指導に際しての様々なコツも具体的に教えていただきました。



アンケートから (一部抜粋)

おもちゃの作り方だけでなく、教師の支援の仕方についてもたくさん学ばせていただきました。

テンポよくたくさんのおもちゃの作り方を教えていただきよかったです。組み合わせたり、工夫したりすることの楽しさを体感することができました。身近にあるもので、これだけのことができることがわかりました。

子どもたちの思いを大切にしたい教材、満足感・達成感・学びのある教材を教えていただきました。

身近な材料で楽しく工夫して作る工作に夢中になりました。工夫して作ることが、次の意欲や興味に繋がっていくことを改めて感じました。

身近な材料を使って、たくさんのおもちゃができて楽しくなりました。たくさんのおもちゃを作ることができて楽しかったです。また、工夫を加えることで、一つのおもちゃが二つ三つと楽しめるおもちゃになることを知りました。

細水保宏先生の講座「算数・数学科の授業づくり」

8月21日(火)に、筑波大学附属小学校の細水先生をお招きし、師範授業と講演会を行いました。

師範授業は、左のような形に貼られたシールの数(奇数の和)を求める活動を通して、数や式、図形との関連を深めていながら、数や図形の感覚を育てることを目標としたものでした。

授業は、「何個あるかな。」と一瞬だけシールの貼られたフラッシュカードを子どもたちに見せることから始まりました。「もっとゆっくり見せて。」という子どもたちのつぶやきが生まれるような、一つひとつを数えることができないような瞬間的な提示の方法でした。そして、先生は、「わからないときは、『わからない』と言うんだよ。

『だからこうして』と言うことが大事だよ。」と子どもたちに伝え、活動に入っていました。子どもたちは、一つひとつの数を数えることができないことで、その貼られた形で全部の数を捉えていこうとします。形がピラミッド状であったこと、一番下の段が9個

あったこと、5段になっていたことなどから、数を求めていきました。「 $1+3+5+7+9$ で25」「 5×5 で25」などの考え方の式を図と結びつけながら一つひとつ確認していきました。授業の中で先生は、「えっ」「本当に?」「絶対?」と、何度も子どもに問いかけられました。この問いかけが、子どもたちの「だって~」とその理由を自分の言葉で語ることに繋がっていきました。そして、授業を受けて、「『考える力・表現する力』が育つ算数・数学の授業」という演題でお話もしていただきました。



師範授業や講演を通して、様々なことを教えていただきました。その一部を紹介します。

授業力を鍛えるために

授業観をもつ

どんな授業をしたいのか、子どもたちに何を学んでほしいのか。先生が子どもたちに身につけさせたい力は何か、そしてそのためにどういった授業をするのかを明確にもつ。

学習指導力を鍛える

褒めることで教師の価値観を伝える。授業中のちょっとしたやりとりで、自分の価値観をクラスの子どもたちに伝える。誰かの発言したことを褒めて認めたり、聞き手を育てるためによく聞いている子を褒めたりする。褒めることは、その子だけでなく、クラス全体に教師の価値観を伝えることになる。また、一人ひとりをとらえる目を鍛え、指導技術を鍛えることも大切(発問、助言の仕方、板書、ノート活用の仕方)。

教材研究力を鍛える

教材研究をするかどうかが大重要。子どもが算数を好きになるにはどうしたらいいかを考えながらおもしろい教材研究を試みる。また、素材をアレンジする力をもつことが大切。

豊かな人間性を持つ

教師自身が豊かな人間性を持つことが大切。笑顔が大事。



「はてな?」「なるほど!」「だったら~」で授業を創る

思わず考えたくなる場、表現したくなる場を創る

「えっ」「本当に?」「絶対?」で、子どもの「だって~」を引き出す。子どもの理論をしゃべりたくなる場をどうつくっていくかが大切。「だって」の後に続くのは理論である。子どもの考える力を伸ばすためには理論を引き出していくことが大切。

あいまいな場面をつくり「問い」を子どもたち自身から引き出す

「アレッ」「おかしい」「なぜかな」といった気持が生まれる場面をつくる。

考えてよかったと感じる場、表現してよかったと感じる場を創る

大切なことは子どもに言わせる

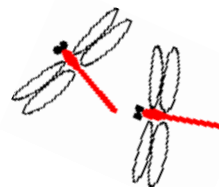
数学的な思考力・表現力を育てる

式に表わす、式を読み取る活動を重視する

式を読む活動を通して、その考え方はどのような考え方が、図や言葉と結び付けてとらえる。言葉と式と図の関連を図る。

「帰納的な考え」「類推的な考え」「演繹的な考え」で考える楽しさを

アンケートから (一部抜粋)



とてもすてきな授業を見せていただきました。一人ひとりの様子をよく見て、子どもの反応に丁寧に一つひとつ応え、子どもたちが夢中になっていく姿を目の当たりにしました。とても感動しました。これからの指導に活かしていきたいです。

授業の組み立て、子どもたちの気持ちをひきつける声かけ等多くのことを学ばせていただきました。問題解決の糸口となるポイントを子どもたちから引き出すところからはいつていく授業展開でした。子どもの今の状態から、何を示し指導していくかというところが、担任の力をいれるべきところであると思いました。

子どもの言葉を引き出し、子どもの言葉を繋ぎながら展開する授業の実際をみることができました。細水先生がおっしゃっていた4つのポイントを念頭に置いて、これからの授業を展開していきたいです。

子どもが学びたくなる、子どもが目を輝かせる授業づくりの具体的な手立てがよくわかり、大変参考になりました。日頃から教師として何を一番大切にしていかなければならないかを考えました。実践に活かしていきます。

算数の授業理論もそうでしたが、先生のさりげない一言で子どもたちのやる気を引き出していけるということ、大事なことは子どもに言わせるということなど、日々の授業に役立つことをいっぱい教えていただきました。

何もかも参考になることばかりでした。教科書を教えるのではなく、教科書で教えるというよく聞く言葉の本当の意味がわかりました。子どもたちの目の輝き、印象的でした。そんな輝きのある授業をつくりたいです。

教科を超えた教師としてのあり方を教えていただけてよかった。大切なのは人間性、それをしっかりと教えてもらいました。

来年も来ていただきたいです。今年研修はどれもいいですね。